



国民の森林・国有林

北上川中流国有林の森林計画に関する住民懇談会



林 野 庁 東 北 森 林 管 理 局 署
岩 手 南 部 森 林 林 管 理 署 ・ 遠 野 支 署



目 次

- 1 計画区の主な取組状況について
- 2 次期計画の基本的方針について



1 計画区の主な取組状況について

(1) 公益重視の管理経営の一層の推進

○ 治山事業の実施

安全・安心な暮らしを確保するため、山地災害が発生した国有林野及び都道府県から要請のあった民有林野において、更なる被害発生を防ぐための復旧対策工事を実施しました。

○ 生物多様性の保全

原生的な森林生態系において「保護林」や「緑の回廊」を設定し、モニタリングとその結果を踏まえた保全・管理と柔軟な見直し等を推進しています。また、溪流等と一体となった森林の連続性の確保による森林生態系ネットワークの形成に努め、これらを通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用の推進に積極的に取り組みました。

復旧状況

H28.10月撮影

岩手県内陸地震の復旧状況

移入植物の駆除

森林保護員による
早池峰山周辺の巡視

岩手・宮城内陸地震で被害が大きかった一関市巖美地区の本寺小学校では、震災の記憶を次世代語り継ぎ防災意識を高める活動を行っています。

震災当時の様子を解説し、地滑りの仕組みや復興に向けた治山工事の成果など、自然災害の脅威と地域を守る大切さを伝えました。

内陸地震の被害と地滑りの仕組みを学習

早池峰地域において、近年の登山者増加に伴う高山植物の盗掘等による植生荒廃等を防止するため巡視を行っています。

また、関係機関と連携し、繁殖力が強く、高山植物を駆逐する可能性も高いといわれている移入植物(オオバコ、オオハゴンソウなど)の駆除にも取り組んでいます。

(2) 森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献

○ 低コスト化を実現する施業モデルの展開と普及

路網と高性能林業機械とを組み合わせた作業システムによる間伐や、コンテナ苗を活用し、伐採から造林までを一体的に行う「一貫作業システム」など、低コストで効率的な作業システムの実証を推進しました。

また、これらの取組について、各地での事業展開を図りつつ、現地検討会の開催等により民有林における普及・定着に努めました。



伐採から植付まで一貫して行う作業システムの普及に取り組んでいます。また、植付には「コンテナ苗」を使用し、作業の効率化を図っています。

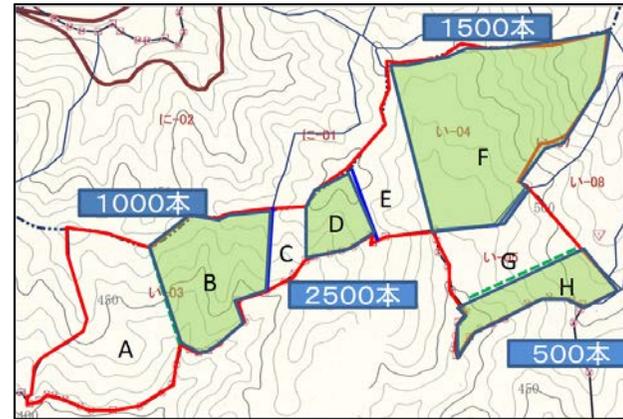


木材の搬出や運材を効率的に行うため、林業専用道を開設し林内の路網密度を高めています。

間伐、主伐、そして再造林を確実に行うためには、伐採や造林にかかるコストの縮減が重要であり、また課題でもあることから、低コスト化へ向けた取組みを推進しています。

○ 林業の低コスト化等に向けた技術開発

民有林への普及を念頭においた林業の低コスト化等に向けた技術開発を、産官学連携の下で取り組みました。また、実用段階に到達した先駆的な技術や手法について、地域の状況に応じて事業レベルでの試行も行いました。



平成26年に1ha当たり500本,1000本,1500本,2500本の植栽本数区を設定「A」、「C」、「E」、「G」区では、下列りの省略化も試験的に実施しています。

(3) 国民の森林としての管理経営

○ 森林環境教育の推進

学校等と森林管理署等が協定を結び、様々な自然体験や自然学習を進める「遊々の森」の設定・活用など、森林環境教育に係るプログラムの整備やフィールドの提供等に積極的に取り組んでいます。



「遊々の森」
水源の森 植樹活動

国有林のフィールドを提供し、協定を締結することにより、地域のみなさんの多様な森林整備や保全活動などに協力する取り組みを行っています。

管内では、8カ所の協定箇所があり、今後も国民参加の森林づくりを推進します。

また、毎年、地域の教育機関からの要望があり、継続的な森林環境教育の取り組みを行っています。

○ 森林の整備・保全等への国民参加

自ら森林づくりを行いたい、次代に引き継ぐべき木の文化を守りたいという国民の要望に応えるため、ボランティア団体等と森林管理署等が協定を結び、国有林野をフィールドとして森林づくり活動を進める「ふれあいの森」や「社会貢献の森」、「木の文化を支える森」等を設定するとともに、技術指導等の支援を行い、国民参加の森林づくりを進めています。



「社会貢献の森」ホーマックの森
地元園児の植樹活動



「木の文化を支える森」の
活動支援

平泉古事の森は、協定を締結し神社仏閣などの歴史的木造建築物の修復を目的とした木の文化を支える森づくりの活動をしています。

次代を担う児童や地域の皆さんと、木の文化を支える意義と長期の森づくりを学ぶため、植樹及び保育活動・森林教室など森に親しむ体験活動の支援を行い、ふるさとの山を大切にするという意識醸成を図っています。



2 次期計画の基本方針について

次期計画策定に向けての基本的な考え方

○ 林業の成長産業化という課題の中での国有林の役割の発揮

森林吸収源対策としての間伐及び主伐・再造林の推進、モザイク状に配置された森林への誘導等多様な森林整備の推進、森林施業の低コスト化、計画的な木材供給に取り組みます。

また、森林総合監理士等による民有林への実践的な技術普及等に取り組みます。



列状間伐 ↑ (1伐3残)

高性能林業機械による間伐

共同利用している路網

民有林と協調した森林整備
のための説明会

育成単層林(人工林)では、従来の単一樹種の人工林として育成するだけでなく、針葉樹と広葉樹の混交林として仕立てることも指向します。

列状間伐は利点として、選木が機械的で容易・伐倒でかかり木になりにくい・残存木への損傷が少ない・全木集材が容易なことから、引き続き列状間伐の実施率向上に取り組みます。

また、林業経営コストの削減に取り組むため、国有林が率先してコンテナ苗を活用した一貫作業システムを用いた効率的な作業システムを推進します。

花巻市の葛丸共同施業団地では、民有林と協調した森林整備を推進するため、共同施業団地の協定者が連携して、合理的な路網整備および効率的な森林施業の実施に取り組みます。

今後も、民有林の間伐作業の実施に協力していく考えであり、共同利用している路網の利用時期、国有林内の事業との調整など事業担当者の連携をもとに民有林と協調した森林整備に取り組みます。

また、管内民有林との情報共有に努め、新たな共同施業団地の設定を推進します。

次期計画策定に向けての基本的な考え方

○ 豊かな自然環境の保全管理

優れた景観を有する貴重な天然林等が多数存在し、また希少野生動植物が数多く生息していることから、地域住民、ボランティア、NPO等とも連携を図りながら、その特性に応じた保全管理に努めます。

また、管内の教育機関の要望に応え、継続的な森林環境教育に取り組みます。



栗駒山清掃活動



和賀仙人姥スギ



笹間第二小学校(森林教室)



平泉小学校ほか3校
(森林教室)

森林生態系保護地域である栗駒山では、一関市観光部局や山岳会・NPO等で構成される栗駒山麓連絡協議会と連携し、登山道やその周辺の清掃活動を実施しています。またグリーンサポートスタッフによる巡視や登山マナー向上のための呼びかけを行っており、希少な野生植物の保全に努めます。

北上市では「森の巨人たち百選」に登録されている「和賀仙人姥スギ」があり、地元市民団体が保全活動を実施しております。

管内で活動されている団体との連携を継続するとともに、その特性に応じた自然環境の保全管理に努めます。

森林環境教育とは、「森林内での様々な活動体験を通じて、人々の生活や環境と森林との関係について理解と関心を深めるため」主に小学生を対象に実施しています。

花巻市の笹間第二小学校からは毎年春に依頼があり、地元森林事務所森林官および職員を講師として派遣しています。

平泉町および奥州市衣川地区の小学校4校には、「平泉古事の森育成活動」の中で森林教室を実施していますが、協議会事務局の平泉町と連携をとりながら活動を継続していく考えです。

次期計画策定に向けての基本的な考え方

○ 山地災害の防止の徹底

山地災害のおそれのある箇所には、適切な治山事業を計画し下流域の安心・安全に努めます。



地下水を排除するためのトンネル



岩手内陸地震の被害
約20haの地すべり



倒木をチップ・堆肥化
植樹会を開催



緑がもどりつつある
治山施工地

一関磐井川地区では、地すべり誘因となる地下水をトンネル暗渠と集水井等により排除し、地すべり斜面に杭を挿入して地すべりの滑動力に抵抗させる杭打工等を実施しています。

平成20年6月に発生した岩手・宮城内陸地震では最大震度6強を記録したが既施工区域内では大きな被害もなく、地すべり防止事業の効果が発揮されました。

また、ニゴリ沢区域のトンネル暗渠工からは毎分1.5トン～2.0トンと安定した水量が得られ、一関市の上水道として利用されており、副次的な効果も生み出しています。

山地災害のおそれのある箇所には、適切な治山事業を計画し下流域の安心・安全に努めます。

岩手・宮城内陸地震の被害箇所については、早期復旧及び集中豪雨による山地災害に対する警戒を含め、地域住民の安心・安全の実現に向けて、引き続き災害復旧事業を実施することとし、民有林治山事業等との連携を図り、計画的・効率的に取り組めます。

実施に当たっては溪流生態系に配慮した工法を採用するなど、生物多様性の保全に配慮した対策を推進します。

また、地域の防災意識を高める取り組みとして、震災当時の様子を解説し、地すべりの仕組みや復興に向けた治山工事の成果など自然災害の脅威と地域を守る大切さを伝えてまいります。



● 次期計画策定に向けての基本的な考え方

○ 病害虫及び鳥獣害対策の徹底

当地区では、松くい虫やナラ枯れ等の病害虫対策とニホンジカ被害対策について、日常の巡視強化による早期発見、被害予防に向け民有林と連携した取り組みを行います。



ニホンジカ被害対策(忌避剤の塗布)

ニホンジカによる樹木の食害、農作物の被害が拡大している中で、その生息状況や被害状況の把握に努め、鳥獣被害対策について、管内市町の鳥獣被害対策協議会等に積極的に参画し、囲いワナによる捕獲に取り組みと共に、狩猟支援として冬期の林道除雪を実施します。



ナラ枯れ監視強化地区(一関市)

森林病虫害被害防止のため県や市町村等から情報を得ながら早期駆除を行います。

特に、ナラ枯れについては、県南広域振興局と「ナラ枯れ被害対策の連携強化に関する協定」を継続して締結し監視強化に努めます。



林 野 庁 東 北 森 林 管 理 局
岩 手 南 部 森 林 管 理 署 ・ 遠 野 支 署